

入域観光客統計概況

- 平成 17 年 7 月分 -

平成 17 年 8 月 24 日
沖縄県観光商工部

7 月の入域観光客数は、474,400 人。前年同月比は、+6.5% (+29,000 人) で、同月の過去最高を記録した。
1 月～7 月までの入域観光客数は、3,072,500 人。前年同期比は +4.4% (+130,400 人) で同期間の過去最高を記録した。

1. 国内外別入域状況

国内：457,700 人 前年同月比 +6.5% (+27,900 人)
海外：16,700 人 前年同月比 +7.1% (+1,100 人)

2. 主要航路別入域状況

東京	222,200 人	前年同月比 +6.3%	(+13,200 人)	構成比 46.8%
大阪	91,200 人	前年同月比 +8.2%	(+6,900 人)	構成比 19.2%
福岡	55,000 人	前年同月比 +0.2%	(+100 人)	構成比 11.6%
名古屋	40,400 人	前年同月比 +20.2%	(+6,800 人)	構成比 8.5%

3. 概況と見通し

7 月の入域観光客数の概況としては、国内客については、大手航空会社の割引運賃の設定期間の延長や、増便や使用機材の大型化による空路の提供座席数の増加、羽田 - 那覇間の深夜定期便の運航、沖縄人気の継続などの理由により昨年実績を上回った。

外国客については、高雄 - 那覇間のプログラムチャーター便の運航や定期クルーズ船の運航が好調に推移したことなどにより昨年実績を上回った。

以上のことから、入域観光客全体としては昨年実績を上回り、同月の過去最高を記録した。

今後の見通しとしては、国内客については、夏休み期間の旅客輸送実績が好調であったことや沖縄人気が続いていることなどから、昨年実績を上回ると予想される。

外国客については、空路においては、韓国路線が 1 便増便となるが、昨年は 10 月下旬まで運航していた高雄 - 那覇間のプログラムチャーター便が今年は 7 月末で運航を終了したことなどにより、伸び悩みが予想される。

以上のことから、入域観光客全体としては、当面好調に推移すると予想される。

担当：観光企画課 上原
TEL 098 - 866 - 2763
FAX 098 - 866 - 2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

1. 国内

東京事務所(関東地区)

キャリアやエージェントが、夏の沖縄旅行商品の販促活動を例年より早めに展開したこと、7月からスカイマークエアラインズによる深夜定期便が運航したことなどにより市場全体が好調に推移した。

8月は、料金設定の高い中旬の動きが弱い後半の動きがよく、全体的には昨年を上回る見通しである。

大阪事務所(大阪地区)

幅広い層に沖縄人気が続いていること、個人旅行者向けの旅行商品が充実したことなどにより入域増となった。

沖縄観光のトップシーズンに入り、大手旅行代理店の予約状況は昨年と比較して110%~120%の伸びを示しており、台風等のマイナス要因が発生しない限り順調に推移すると思われる。

福岡事務所(九州・山口地区)

個人旅行者や地域団体等小規模の団体旅行が増えたことなどにより前年実績を上回った。昨年に比べ微増にとどまった理由としては、愛知万博との競合や大型コンベンション開催件数の減少、夏休み時期の分散化傾向などが挙げられる。

8月は個人旅行や家族旅行の伸びにより、前年実績を上回る見込みである。

名古屋事務所(名古屋地区)

夏期臨時便の運航や機材の大型化により提供座席数が増加し、それに対応した旅行商品の販売が好調だったことなどにより入域増となった。

旅行代理店によると、商品造成の際の航空運賃価格が7月後半と8月後半で同一となったため、従来8月に旅行していた客層が7月にシフトしており、8月の集客については伸び悩むことが予想される。

北海道観光・物産情報センター(北海道地区)

6月から8月は直行便が運休しているため定量的なデータはないが、他の目的地に比べて沖縄は旅行者の動向が活発なことや、各旅行代理店が沖縄の旅行商品の広告宣伝を強化していることなどにより経路便の実績が昨年を上回ったと推測される。

9月から再開される直行便の使用機材が大型化され、1便あたり100席増席となることから、各旅行社とも9月以降に沖縄キャンペーンを展開することである。

2. 海外

台北事務所

台風5号の台湾上陸により空路2便と定期クルーズ船1便の運休があったが、高雄・那覇直行チャーター便の運航と個人旅行者の増加により入域増となった。

8月は台風9号の影響により定期クルーズ船が1便運休となっており、上記のチャーター便についても今年は7月末で運航を終了(昨年は10月下旬まで運航)したことなどにより、今後は送客数が減少する見込みである。

韓国事務所

定期便を利用したパッケージ商品の販売状況は良くなかったが、夏休み期間に入り、家族旅行者が増えたことや、フェリーフライトを利用した格安商品を造成することができたことなどの理由により前年実績を上回った。

上海事務所

夏休み期間中の現在、大手旅行社5社で取り扱っている海外旅行先は香港・マカオ・東南アジア、ヨーロッパが多くなっており、訪日旅行先としては東京・大阪のほか、愛知万博の開催されている名古屋や、北海道の人気が高い。

沖縄の知名度向上を図るため、地元メディアによる情報発信に取り組むとともに、8月は沖縄と上海の子ども将棋交流の一行40名余りの送客を支援した。